



2026年8月12日

各 位

会社名 株式会社 イメージワン  
代表者名 代表取締役社長 川倉 歩  
(コード番号 2667 東証スタンダード)  
問合せ先 経営企画部長 佐藤 篤史  
(TEL 03 - 5719 - 2180)

### 営業外費用の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026年8月12日開催の取締役会において、2026年9月期第3四半期累計期間における営業外費用の計上及び2026年9月期（2025年10月1日～2026年9月30日）の業績予想を下記のとおり修正することを決議しましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 営業外費用の計上及びその内容について

##### (1) 投資事業組合運用損

当社が出資するアリストゴラ VC イスラエル・テクノロジーL.P.（ファンド）について、直近の資産評価を見直した結果、2026年9月期第3四半期累計期間において、投資事業組合運用損 53,263 千円を営業外費用として計上いたしました。これは主に、当該ファンドの保有資産の評価額の変動を踏まえ、当社の出資持分に応じた損失を計上したことによるものであります。なお、2026年9月期第2四半期累計期間において同運用損 31,266 千円を計上しており、当第3四半期会計期間における追加計上額は 21,997 千円であります。

##### (2) 貸倒引当金繰入額

2026年6月30日付で株式会社 Kaihan Medical に対し、将来的な医療機関向けシステム導入等の協業・シナジー創出を目的として 125,000 千円の資金貸付（年利 15.0%、返済期日 2026年9月30日）を実施しておりますが、同社の財政状態、経営成績、資金繰りの状況及び返済原資の確保状況等を総合的に勘案し、貸付金の回収可能性を保守的に評価した結果、2026年9月期第3四半期累計期間において、本貸付金に係る貸倒引当金繰入額 62,500 千円を営業外費用として計上いたしました。

なお、四半期損益計算書上の貸倒引当金繰入額は、第2四半期累計期間 1,062 千円、第3四半期累計期間 64,093 千円であり、当第3四半期会計期間における増加額 63,031 千円のうち、本貸付金に係る増加額は 62,500 千円であります。

#### 2. 当期の業績予想数値の修正について（2025年10月1日～2026年9月30日）

|                         | 売 上 高<br>百万円 | 営 業 利 益<br>百万円 | 経 常 利 益<br>百万円 | 当 期 純 利 益<br>百万円 | 1株当たり<br>当 期 純 利 益<br>円 銭 |
|-------------------------|--------------|----------------|----------------|------------------|---------------------------|
| 前回発表予想（A）               | 1,377        | 76             | 74             | 226              | 17.44                     |
| 今回修正予想（B）               | 580          | △736           | △860           | △728             | △51.4                     |
| 増 減 額（B－A）              | △797         | △812           | △934           | △954             | －                         |
| 増 減 率（％）                | △57.8%       | －              | －              | －                | －                         |
| （ご参考）前期実績<br>（2025年9月期） | 866          | △410           | △447           | △559             | △50.46                    |

### 3. 業績予想修正の理由

売上高につきましては、ヘルスケアソリューション事業において、仕入原価高騰に伴う価格調整等の影響によりシステム販売が計画を下回ったことに加え、電子カルテに関連する大型案件の受注に至らなかったことから、業績予想を下回る見込みとなりました。

また、地球環境ソリューション事業におきましては、測量・建築業界での新規案件の獲得が伸び悩んだことによる当期売上高の減少に加え、可視近赤外線分光放射計の新規受注を獲得できなかったこと、ならびに IAEA 向け耐放射線カメラの改修時期のずれに伴い当期内の売上計上が困難な見通しとなったこと等から、同様に業績予想を下回る見込みとなりました。

営業利益についても、上記記載の案件の獲得に至らなかったことで、売上総利益が減少した影響を受け、当初計画を下回る見込みとなりました。

経常利益については、営業利益の減少に加え、「1. 営業外費用の計上及びその内容について」に記載のとおり、アリストゴラ VC イスラエル・テクノロジー L.P. (ファンド) に係る投資事業組合運用損 53,263 千円及び株式会社 Kaihan Medical に対する貸付金に係る貸倒引当金繰入額 62,500 千円を営業外費用として計上したことから、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

この結果、売上総利益の減少、営業外費用の計上により、当期純利益は前回発表予想の 226 百万円から△728 百万円となり、前回発表予想を 954 百万円下回る見通しとなりました。

(注)上記の予想は、本資料の公表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によってこれらの予想数値と異なる可能性があります。

以 上